

総合演習

授業案

授業タイトル：一步踏み出そう!!

子供の設定：
地域の特徴

横浜市旭区の5～14歳の男子の子の数11,428人、女の子の数11,016人

旭区は、人口が市内第5位、面積が同第3位の、18区の中でも比較的大きな区である。

起伏に富んだ地形が大きな特徴で、中央部を帷子川が流れ、北部には横浜動物の森公園、南部にはこども自然公園という大規模公園がある、水と緑に恵まれた区である。

区内には二俣川駅など相鉄の4つの駅が存在し、横浜へのアクセスも良好で、区誕生（昭和44年）以降、市西部の住宅都市として発展を続けてきた。区の高齢者数、高齢化率はともに市内第1位にあり、高齢者をはじめとした区民の健康づくりや地域の福祉を推進し、区民の誰もが安心して住み続けられるまちづくりが求められている。

家族構成は一人っ子の家庭が多く、兄弟姉妹は2人以下という家庭がほとんどである。また両親が共働きの家庭が多く、子どもは夕方まで学童などで過ごし、一人で帰宅することが多い。そのため、放課後に近所の公園などで遊ぶ時にも親の目は少ない。ほかの区と比べて比較的窃盗や非行のトラブルが多く、治安が良いとは言えない。そのため、夜間の警察の巡回は頻繁に行われている。

- 1 学年
5年生

- 2 子供達の構成

男子16名、女子14名の計30名

子どもたちの様子：5年生になり新しいクラスになった児童たちは、前のクラスが同じだった友達や、自分と気が合う友達とよく一緒にいるため、今のクラスに3～4人の男子、女子同士のグループができていること、中休み・昼休みにも一人である子が目立つ。

思春期：男女を意識し始める時期になり、男女の距離が開き始めている。

最近女の子からは「男の子は子どもみたい」などといった発言を良く聞き、また、体の変化に伴い更衣室が分かれるなどと言った環境の変化から、男女の成長の違いについて気づき始めている様子である。

教師の問題意識：

係決めなどの際に、この係はこの子が適しているというような意識がクラス全体に浸透しているため、いつも目立つ子が立候補する形になっており、やりたくても立候補しにくい環境になってしまっている。この子はこういう子、という概念が子ども達それぞれにあるため、本来の自分を出せず、苛立ち、ストレスを感じている子どももいる。また、クラス全体で人任せにしてしまう子が増えているため、積極的態度を養うために、積極的な態度を育てたい。

そこで、授業を通して、子どもたちが素直になりたい自分を表現できるようにしたい。そして、あるがままの自分を子ども同士が、受け入れ認め合える関係性を作り出したい。

授業目的：（目に見えなくても構いません）

- ・クラス全体でコミュニケーションがとれるようになる。
- ・子どもたち同士が相手を認め、受け入れる態度や積極的・主体的な態度を養い、「あるがまま」を受け入れていける関係を築く。

子ども達の到達目標：（目に見える具体的なものにします）

- ・友達の意見を取り入れた発言ができる。
- ・仲の良いグループ以外の友達と活動に参加することができる。
- ・今まで話したことのない相手にも、自分から声をかけたり、遊びに誘ったりすることができる。
- ・自分から行動・発言し、課題を解決しようとする。
- ・異性の友達ともグループとして参加できる。
- ・自分や友達の良さを発見し、今までにない役割を担うことができる。
- ・話し合いを通して、解決したり、親しみを表わしたりなどのスキンシップをとることができる。

授業計画：授業目的を達成するために必要な授業数と各授業の概要
（達成目標をクリアするのに必要なだけの授業を計画します）

授業回数	テーマ	各授業での子供達の具体的な達成目標
1回（2時間）	「新しいクラスの皆と仲良くなるう！」	普段あまり話すことのない友達と話すこと。 自分の意見を積極的に発言できるようになること。 友達の意見を聞き、それを取り入れた意見を発言できるようになること。

本時の授業：上記の表の1回目の授業（模擬授業は上記の授業計画の中の1つの授業をします）

本時のポイントや指導上の注意点：

グループを作る時に、普段あまり話さない友達同士や男女混合にすること。
普段あまり発言をしない子に対しても発言のできるチャンスを与えること。
子どもたちが熱中する場面と話を聞く場面のけじめがつくように教師は気を配る。笛などを使用して、笛を鳴らした時には動きを止め、教師に注目するなどの決まりを作る。

授業方法：なぜ、その授業方法／教材、etc.を選んだのか？

TAPを行うことにより、話す機会が増えるため友達の性格や考えなどが分かり、互いに相手の理解を深めることができる。

TAPの活動には、スキンシップをとるような行動が多いので、打ちとけ合うことがスムーズにでき、信頼関係も深まる。

本時の授業：「新しいクラスの皆と仲良くなるう！」

- ・準備物
（教師）フラフープ・笛・ストップウォッチ・ワークシート
（児童）筆記用具・体操着・体育館シューズ
- ・活動場所・・・体育館

（注）実際の模擬授業は人数の関係もあるので、導入・展開・まとめの部分をそれぞれ縮小しながら40分で授業を行いたいと思います。

流れ	教師の指示内容	教師の動きなど	時間
導入	<p>これから総合の授業を始めます。 →男女別に背の順・2列で並ばせる</p> <p>まず今日の本題に入る前に、みんなでウォーミングアップをします。 隣同士で2人組（注1）になってください。 では立って体操隊形に開いて、2人組で座ってください。</p> <p>①今から準備体操の意味も込めて、「鏡体操」をします。まず最初にどちらか一方が鏡になって、もう一人の真似をしてください。何の体操をしてもOKです。（教師が例を見せながら説明する） →ここでの注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動がおふざけやお遊びにならないように、あくまで準備体操であることを強調しながら、教師は例示をする ・活動自体は子どもが主体になってほしいので、教師は見守るかたちで子どもたちに任せる <p>笛を吹いて合図をしたら役を交代してください。それでは始め。 （3分ずつ位で交代する） ピー！ここに男女別でそれぞれ輪を作ってください。</p> <p>②では次に「順番に並ぼう」ゲームをします。 今から4つのグループに分かれます。女子は〇〇さんから、男子は〇〇君から順番に「1・2・3・4・1・2・3・4・・・」と番号を言っていてください。自分の番号は覚えておいてください。それではどうぞ。 →番号を言わせる</p> <p>では1グループはここ、2グループはここ、3グループはここ、4グループはここに分かれてください。（→場所を指定してグループごとに集める）</p> <p>ゲームの説明をします。 グループごとに誕生日の早い順（4月～3月の順番）に並んでもらいます。 より速く、より正確に並べたチームが勝ちです。</p> <p>ただしルールが1つだけあります。 先生が「始めてください。」と言ったら一言もしゃべってはいけません。 これだけを守って、正しい順番にきちんと並んでください。 では、始めてください。 （予想される子どもの言動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を交わしてはいけないことに困惑する ・「しゃべらないで順番通りに並ぶなんて無理だよ」 <p>→こういった状況が次第に変化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディランゲイジやジェスチャーでコミュニケーションをはかろうとする子どもが出てくる ・他のチームを見て試行錯誤し始める <p>答え合わせをします。 →誕生日が早い順に並べているか確認させる。</p> <p>みなさん並べていましたね。 それではそのまま隣の人と手をつないで座ってください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人数合わせと監督の意味で、アシスタントティーチャーを頼んでおく <p><体育館にて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操着に着替えさせ、体育時と同じように男女別の背の順2列で整列させておく <ul style="list-style-type: none"> ・まずは取り組みやすいように、いつもの体育の男女別2人組でペアにする（注1） <ul style="list-style-type: none"> ・教師が恥ずかしがらずに、色々な例を出す <ul style="list-style-type: none"> ・怪我の無いようにルールをきちんと確認させる <ul style="list-style-type: none"> ・手をつなぐことで、距離感を近づける <ul style="list-style-type: none"> ・男女混ぜたグループを自然な形でつくる ・各チームの人数を同じにする <ul style="list-style-type: none"> ・練習の様子を巡視しながら、うまく進んでいないグループに声をかける 	<p>導入 30分</p> <p>↑ 3分</p> <p>↑① 5分</p> <p>↑② 7分</p>

	<p>③次は「フープリレー」をします。</p> <p>(1グループを例にして、教師も交じってゲームの説明をする) 輪になって手をつないだままフラフープを一周させます。 いかに速く一周させることができるかをグループで競います。 今から練習タイムを設けるので、どうしたら速く出来るのかグループで作戦を練ってください。 フープのくぐり抜け方・並び方(身長など)がポイントになってくると思います。</p> <p>(子どもたちの予想される発言) ・「頭からくぐる」 ・「身長差ができないように大きい人はかがんで」</p> <p>それではスタートしてください。</p> <p>ピー！練習タイムの終わりです。 それでは今からグループごとにタイムを測って競います。 →各チームひとグループごと順番にタイムを測る (4グループがタイムを測り、記録をメモする) →タイムの発表をする(4位から順番に)</p> <p>1位は…○○グループです！ 拍手！！がんばりましたね。</p> <p>それでは今のグループでの経験をいかしながら、今日はクラス全員で1つのミッションをクリアしてもらいたいと思います。</p>		<p>↑③ 15分</p>
<p>展開</p>	<p>では今日のミッションを説明するので、一度先生の周りに集まってください。</p> <p>みんなに達成してもらいたいミッションは「エブリボディアップ」です。 このゲームは(アシスタントティーチャーと例をする)、こういうものです。 簡単そうに見えますか？ でもこれは2人でやるわけではありません。クラス全員で成功させるのです。できますか？</p> <p>では練習してみましょう。 近くのお友達と2人組になってください。2人組になれた人は手をつないで座ります。</p> <p>はい、できましたね。 (→子どもに動作をさせながら、同時進行) では2人で向かい合って手をつないで座ります。 つま先を合わせて「せーの」で2人同時に立ちあがります。 同時に立って2人で声をそろえて5秒数えられたら、成功です。 このときにグラついて足が動いてしまったり、手が離れてしまったり失敗です。 2人ではみんなできますね?!もう一度2人でやってみてください。</p>	<p>・分かりやすいように実践しながら説明する</p> <p>・教師が一方向的に説明する時間を少なくするため、子どもに動作をさせながら説明をしていく</p>	<p>展開 40分</p> <p>↑ 5分</p>

	<p>それでは次に近くにいるグループと合体して、4人グループをつかって座ってください。</p> <p>(1つのグループに入って、例をみせながら)</p> <p>これから人数が増えていくとつま先同士がくっつかなくなりますね。そのため隣同士で必ず足をくっつけてください。あとはさっきと一緒にです。それでは始めてください。</p> <p>→出来たグループ同士を教師がどんどん8人・16人とくっつけていくクラスを半分にする(16人)ところまでやる</p> <p>→子どもたちが成功させるために話し合うことが予想される</p> <p>ピー！一度やめて先生の周りに集まって、座ってください。</p> <p>今クラスの半分の人数でやることも難しかったと思います。それぞれのグループでいろんな作戦が出ていました。どんな作戦が出たか、各グループから紹介してもらいましょう。(→教師がランダムに各グループの3～4人をあてる)</p> <p>それでは今出てきた作戦をヒントにしながら、クラス全員でミッションを達成させましょう。ただし制限時間は20分です。〇時〇分までに頑張って成功させてください。</p> <p>それではスタート！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女が偏らないように、教師が意図的にグループを合体させる ・子どもたちの活動に任せて特には口を出さず、巡視するようにする ・うまくいっていないグループに声をかけて、フォローする ・あまり前に出ることが得意でない児童にも、登場する機会を与える ・児童に任せる ・全員が参加し夢中になれるように、声かけをする ・時間内に成功できない場合は児童のやる気に応じて、休み時間にくいこませたり次回やる機会を約束する 	<p>↑ 10分</p> <p>↑ 5分</p> <p>↑ 20分</p>
--	--	--	---

<p>まとめ</p>	<p>○時○分になったら、笛を吹いて、終わりの合図を告げる。 それでは、筆記用具を持って円になって集まってください。 皆さん満足の結果になりましたか？ ※ミッション成功の場合 まずは、活動の振り返りをしてみましょう。 さて、今の率直な気持ちを聞かせてください。 ・児童の予想解答例 「楽しかった」、「おもしろかった」、「嬉しい」 クラス全員で話し合いをした時には、どのような作戦がでたのか、話し合ったことを少し教えてください。(手を挙げた児童何人かに話を聞く) ・児童の予想解答例 「手の組み方を工夫してみたよ」 「並び方を男女交互にして力を均等にしてみたよ」 「みんなで「せーの」と声を合わせたよ」</p> <p>それでは、これから「振り返りシート」を配ります。 今発言してくれたこと以外にもこの活動で思ったこと、感じたことたくさんあると思います。率直に書いてみましょう。 ～振り返りシートを配る～ 時間は、10分間差し上げるので、周りの人と振り返っても構いません。 しかし、関係のない話はしないようにしましょう。 それでは、はじめ。</p> <p>10分が経ちました。 それでは、シートをもとに皆でじっくりと振り返りをしましょう。 まずは、クラスの皆の様子で良かった子や頑張っていた子、印象に残った場面など皆で発表してみましょう。(クラス全体の様子でも構わない)</p> <p>・児童の予想解答例 「みんなで最後の最後で立ち上がることができてうれしかった」 「〇〇ちゃんは、並び順を変えてみよう、もっとみんな近づこうなど積極的に意見を言っていて良かったです」 「〇〇くんは、一生懸命大きな声を出して頑張っていた」 「この活動だけで、クラス全体が一つになれた気がする」 「クラス全員で協力し合うことができて、達成感があった」 「みんなで作戦を練り、意見を出しあった時が印象的だった」</p> <p>～教師の伝えたいこと～ 今回の活動を通して、一人ひとりが殻を破って新しい発見をしたのではないかと思います。新しい発見とは、自分のなかでもあり、友達、クラス全体でも見られたと思います。 ◎例として場面をいくつか伝える ・普段前に出ることが少ない子が考えや意見を一生懸命伝えていた。 ・今まであまり話すことの少なかった子同士の交流がみられた。 ・クラスが全体で声を出して、ミッションに対して意欲的に取り組み、今まで見たことない真剣さであった。一人の子が何かを伝えている時は全員が目を見ていた。 ここで、どうだった？と児童に「内面的な部分」を質問してみる。</p>	<p>・全員が話し合いに参加していて、皆の力で達成できたことを実感させる。</p> <p>・児童がきちんと振り返りシートと向き合っているか、また友達と活動に合った会話ができているかをみる。</p> <p>・クラスメイトを改めて理解し、新たな発見ができたことをコメントなどから確認する。皆はそれぞれを認め合うことで、何事も意欲的に楽しく取り組むことができるクラスなのだと言前向きなコメントを伝える。</p> <p>・児童が、内面的な変化や発見などを伝えることを恥ずかしいと思わないように、教師からみた、変化や発見を伝えることで、発言しやすい雰囲気や環境をつくる。</p>	<p>まとめ 20分</p>
------------	--	--	--------------------

	<p>・児童の予想解答例 「今まで出せなかった自分を少し出せた気がする」 「自分の考えを一回でも言えて良かった」 「たくさんの子と話せて楽しかった」 みんなそれぞれ今までとは違った世界が見えたのではないのでしょうか。 「私こんなことできるのか、伝えられるのか」と自分を知り、また「○○くんはこんな良いところがあった」と友達の新たな部分を知り、認め合うことができるのはとても素敵なことで大切なことですね。今後もたくさんのお友達と関わり話してみてください。 今回の活動を通して、クラスの雰囲気やみんなの顔が晴れやかで生き生きしていました。今日学んだことは忘れずに心がけましょう。</p> <p>それでは、振り返りシートを提出してください。</p> <p>※ミッション失敗の場合 成功時と同様に上記の質問を聞き、活動の振り返りをしてもらおう。</p>	<p>・集めた振り返りシートは、教室の見えるところに、掲示する。</p> <p>・児童からの要望があった時は、今後休み時間やできる時間を作り、再チャレンジの機会を与えるようにする。機会は、授業の時間で作る。</p>	
--	---	---	--

評価：

<クラス全員で協力して、一つの課題に取り組もうとする姿勢（全体）>

※具体的に

- ・子ども達同士で「どのようにすればよいか」を考え、意見を交わすことができる。
→他の人の意見や考えを聞く時にうなづくことや、「私もそう考える。」など共感を示す言葉などを口にしていたか。
- ・時間をかけて意味のある話し合いができているか。
→ミッションを達成するために、これをやってみようという、あれをやってもよいという積極的な発言があったか。そして、提案者に対して、児童全員が話参加し、共有できていたかも重要である。
- ・男女または、いつもの仲間とは違う友達ともグループをつくって学習できたか。
→教師の指示がなくても、自然に声を掛け合ってグループを作ることができていたか。

< 今回の活動の意味を理解する。(個人) >

※具体的に

- ・最終的に「全員で立ちあがる」ことが目標ではあるが、その過程に意味があることを理解する。(仲間の大切さ、意見を交わし、問題解決に取り組む重要性など)
→この点は、活動を通して最後に感想を書く形をとる。
今回の活動だけで、すぐにクラスの雰囲気良くなり、団結力、協調性が身につくわけではないため、今後この授業外で活かすために、他教科や学校生活の中で、グループ活動や意見交換会などの機会をつくる。
- ・自分の気持ちを素直に表現することができたか。
→全員でミッションを達成することに意味がある。全員で考え、アイデアを出し合わなければならない環境、雰囲気のなかで、今まで人前に出ることや、発言する回数も少なかった児童が自ら行動できたか。

参考文献

- ・プロジェクトアドベンチャージャパン編著(2005) 『クラスの間関係がぐ〜んとよくなる楽しい活動集』 学事出版
- ・プロジェクトアドベンチャージャパン著(2005) 『グループのちからを生かす：成長を支えるグループづくり』 みくに出版
- ・ディック・プラウティ, ジム・ショーエル, ポール・ラドクリフ著(1997) 『アドベンチャーグループカウンセリングの実践』 みくに出版
- ・諸澄敏之編著イラスト(2005) 『みんなのPA系ゲーム243』 杏林書院

- ・横浜市旭区区役所総務課統計選挙係 作成 『データでみるあさひ2010』
インターネット city.yokohama.lg.jp/asahi/madoguchi/somu/senkyo.../da2010-allco.pdf
(2010/05/14 アクセス)
- ・横浜市市民局区連絡調整課 作成 『横浜市 区の紹介』
インターネット <http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/kuren/18/intro/asahi.html>
(2010/05/21 アクセス)